

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立鏡山小学校
1 前年度 評価結果の概要	【成果】① 全職員で学力向上の共通理解と共通実践を継続的に取り組み、児童の学ぶ意欲の向上や学力向上につながった。 ② 会議を精選したり、留守番電話サービス導入したりするなど、働き方改革への教職員の意識も高まり、時間外勤務時間を削減できた。 【課題】① 心の教育推進のために校内体制を整えたり、児童・保護者・職員の豊かな心を高めたりする取組が必要である。 ② 特別支援教育の充実を図り、さらに個に応じた教育を進める。
2 学校教育目標	自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成
3 本年度の重点目標	【知】① 学習規律を整える。② 話し合い活動を通して考えを深める授業を展開し、児童の学ぶ意欲を高める。 【徳】① 児童・保護者・職員の心の教育を充実するために、校内体制を整える。② 特別支援教育の充実を図る。 【体】① 保護者と共に食育を推進する。② 望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研究と学力向上対策評価シートのマイプランを連携させ、より取り組みやすくする。 ・校内研修で定期的にマイプランを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標を達成した教師は92.1%であった。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「話し合い」に取り組むことができたことが分かる。また、校内研究を通して、各学年の「話し合い」の工夫について全校で共有し、考えを深めることができた。本年度の取組を次年度につなげたい。	A	・コロナ禍でも、学校でできることを工夫しながら実践し、学習状況調査の結果が向上したのは素晴らしい。 ・校舎内を見学した際に子ども達の様子を伺ったが、どの子も真剣に学習している姿に感心した。	学習指導部【瀬戸・荒木】 研究推進部【杉原・緒方】
	○学習規律の確立 ・「か・つ・おタイム」の徹底 か…片付け つ…次の時間の準備 お…お茶・おトイレ	○「授業が終わったら、片づけをして、次の時間の準備をしているか」、「授業開始時刻に着席することができるか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・年3回「か・つ・おタイム」強化週間」を設定し、児童への意識化を図る。	B	・1月のアンケートによると、「授業が終わったら、片づけをして、次の時間の準備をしているか」の質問に対して92.4%、「授業開始時刻に着席することができるか」の質問に対して87.3%の児童が肯定的な回答をした。中間評価時の抽出調査よりも若干下がった部分もあるが、成果指標を達成することができた。子供達の意識の高まりを感じる。	A	・「あいがどう集会」の様子から、子ども達が落ちついて学習に臨んでいることがわかる。	学習指導部【瀬戸・荒木】 研究推進部【杉原・緒方】
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 ○人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳に関するアンケートを実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学期に1回、低中高別の人権学習を実施し、人権に係るアンケートを実施する。 ・自己肯定感を高めるため、家庭と連携して、「お手紙いっぴや大作戦」を学期に1回取り組む。	B	・道徳に関するアンケートの結果、「自分にはよいところがあるか」の質問に対して、82%の児童が肯定的な回答をした。「お手紙いっぴや大作戦」などの取組もあり、昨年度の80%より回答も、少しだけ上がった。 ・人権に関するアンケートは実施できなかったが、各学年において人権を大切にする取組や差別を許さない集団作りの実践が積み重ねられており、徐々に人権尊重の意識が育ってきている。	A	・普段から道徳教育に力を入れてあるので、これからも継続して、心の教育の充実にも努めてほしい。	道徳教育推進教師【古川】 人権・同和教育担当【末次】 各学年主任
	●いじめの早期発見・早期対応体制の充実	○「学校は楽しいか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上 ○認知したいじめの3ヶ月以内での解消率100%を目指す。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。	B	・児童アンケートにおいて肯定的な回答した割合は、88.1%で、昨年度から1.5ポイント向上した。 ・認知したいじめの3ヶ月での解消率は100%だった。 ・タブレットを活用したいじめアンケートを作成・実施し、いじめの早期発見・早期対応の意識を高めることができた。アンケートの回収を増やすことで、それまで認知できていなかったいじめに対応することができた。	B	・タブレットを活用して、アンケートを定期的にとることはとても良いと思う。アンケートによって、子どもの素直な気持ちが聞けると思う。	生活指導部【佐藤・名古屋】 各学年主任
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動【志を高める教育】	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童70%以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の姿容に気付かせていく。	B	・夢をもつ児童の割合が82.6%で(昨年比+0.5%)。また、家庭で将来の夢や目標について話している割合が3.1%(昨年比+7.5%)となった。活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行い、児童の姿容を促すと答えた職員は89.2%だった。 ・数値的には向上しているが、発達段階の違いや、コロナ禍で人やものごとと直接触れ合う機会が減ったこと、児童の夢も退然としたものにとどまっている傾向が見られる。	B	・子どもの心に残ることは、学校行事やPTA行事だと思ふ。コロナ禍で行事が中止になったが、コロナが収まったらPTA行事を戻してほしいと思った。 ・もち米を作り、餅つきをしよう。体験的活動は、子どもの心に残る。	主幹教諭・教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「望ましい生活習慣の形成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上 ○「1～3年生は21時まで、4～6年生は22時まで」に就寝した」と答える児童が80%以上	・保護者への啓発を図るために「保健だより」を発行する。 ・食事の大切さを実感したり命や作る人への感謝の気持ちをもたせたりできるように、給食時間を中心に学年に応じて指導を行う。 ・健康調査時に就寝時刻や朝食を摂ってきたかについて調べ、普段の生活習慣を見直し、健康的な生活を送ることができる児童を目指す。	B	・学校評価アンケート調査では、朝食をとって登校する児童96.2%、各学年の目標時間内に就寝した児童79.4%という結果だった。健康調査時の児童の挙手による調査でも、朝食をとって登校する児童は目標数値を上回っていた(99.7%)が、就寝時刻の結果は中間報告時よりも数値が下がっていた(80.8%)。生活リズムの乱れが及ぼす影響を「保健だより」で伝えるなど、保護者への啓発や発達段階に応じた指導を引き続き行っていくとともに、学校と家庭と連携し、児童の健やかな成長につながるようしていきたい。	A	・朝食を食べていないことや就寝時刻が遅いのは家庭でも問題である。食事と睡眠は子ども達の健やかな成長には欠かせないものなので、学校、家庭、地域と連携して取り組んでいきたい。	健康指導部【野上・前田】 学校栄養職員 養護教諭
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ●教職員連携促進	○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」「学年や部会で仕事の分担ができていないか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	・会議1時間以内で実行する。 ・学校や学年行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど運営委員会を中心に考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。 ・運営委員会や学年主任会で主任や部長に働きかけることで協働意識を高める。 ・業務の負担に偏りがなく、企画会メンバーで情報共有し、対応する。	A	・これまでの研修により、職員の意識改革が見られた。時間外勤務45時間以内/月がクリアできている職員が、昨年25%から62.4%へと大幅に改善された。今後も学校全体の業務を見直し、働き方改革を進めたい。	B	・昨年よりも先生方の退勤時刻が早くなり、働き方改革が進んでいると聞いて良かった。 ・先生方が元気でいることがとても大切なことであり、これからも働きやすい職場を目指してほしい。
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援部より年6回程度発行し理解を図る。	B	・児童の様子について、学級担任や生活支援員と日々情報共有することで、共通の手立てを取ることができた。職員アンケートにおける肯定的な回答の割合は87.4%だった。 ・保護者向けの通信を計画通りに発行し、多様性への考え方や関わり方などについて啓発することができた。保護者アンケートにおいて79.1%の方が目を通されていることが分かった。	B	・一人ひとりに寄り添った指導をしてあるので、子ども達は安心して学校生活を送っていることが分かった。	特別支援部【新・佐々木】
	○基本的な生活習慣の実態把握と改善指導	○生活目標のうち「あいさつ」「安全のきまり」「無言清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生活協議会等で児童の実態を把握し、全職員で共通理解を図り、指導重点項目の徹底を目指す。	B	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による活動ができた。 ・児童アンケートにおいて肯定的な回答した割合は、「あいさつ」について90.4%、「安全に気をつけた生活」が90.6%と目標を達成できた。継続的な取り組みに加え、児童による挨拶運動や中学校へ実践の成果を出していると思われる。 ・無言清掃についての肯定的な回答は60.5%と目標を大きく下回った。無言清掃の意識や取り組み目的を共通理解する必要がある。	B	・元気に挨拶をする子が増えてきたが、もう少し、地域でも挨拶をするようになってほしい。 ・家庭での協力も必要。	生活指導部【佐藤・名古屋】 特別活動部【久保・原】
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	・業務改善、教職員の働き方改革をさらに推進し、自らの授業を磨いたり、日々の生活を豊かにしたりすることで、自らの人間性や創造性を高め、子ども達に効果的な教育活動を行う。 ・友達とのつながりやかわりを大切に、掃除や挨拶など、当たり前のこともしっかりとできる子ども達を育てていきたい。							